

佐賀県研究成果情報（平成 23 年度）

カンキツ新品種「津之望」の佐賀県における品種特性					
[要約] カンキツ「津之望」は、「清見」を交配母樹として花粉親に「アンコール」を用い農研機構で育成された新品種である。場内における露地栽培では、減酸が早く、12 月中下旬に成熟期を迎えるため、 <u>年内収穫</u> できるカンキツであることが明らかとなった。					
果樹試験場・品種開発研究担当			連絡先	0952-73-2275 kajushiken@pref.saga.lg.jp	
部会名	果樹	専門	育種	対象	中晩生カンキツ

[背景・ねらい]

年内に収穫されるカンキツの多くを占めるウンシュウミカンは、近年価格低迷が続いている中で、ウンシュウミカンと同時期に出荷が可能な商品性の高い早生品種の導入が望まれている。

そこで、露地栽培が可能で、年内に成熟し、隔年結果性が低く、皮が剥けやすく食味に優れた「津之望」の県内での適応性を明らかにした。

[成果の内容と特徴]

露地栽培におけるカンキツ新品種「津之望」は、次のような特性を有する。

1. 樹姿は円、枝条は開張と直立の中間、樹勢は中程度、枝梢は密生する。また、枝梢の刺については樹齢の経過により発生が少なくなる（表 1）。
2. 果実は平均 180 g 程度、果形指数は 125 程度の扁球形である。果皮は橙色で、厚さは約 2.4mm で薄くて軟らかく、剥皮は比較的容易である。また、果肉は濃橙色で、肉質は軟らかく果汁量は多く、じょうのう膜は薄くて軟らかい（表 2、写真 1）。
3. 種子数については、完全種子が 10 個前後、不完全種子も 5 個前後はいる。また、12 月中下旬に糖度は 11.5～12、酸度は 0.80 程度となり、食味の良い果実である（表 2）。
4. 12 月に成熟する「西南のひかり」と違い、浮皮の発生はほとんどない（データ略）。

[成果の活用面・留意点]

1. 減酸が早く 12 月中下旬に成熟するため、減酸がすすみにくい地域での年内収穫できるカンキツ品種として導入が期待できる。
2. 着果量が多いと果実はやや小さくなりやすいため、適正着果に努める。
3. 種子は、周囲に花粉の多い品種を栽培しなければ少なくなる。

[具体的データ]

表1 試験場内における「津之望」の樹性

品種名	樹姿	枝条の性質	樹勢	枝梢の粗密	枝梢の刺
津之望	円	中	中	密	少・短
せとか(対照)	円	中	やや弱	密	少・短

表2 試験場内の露地圃場における「津之望」の果実品質

分析日	果形指数	1果重	果皮色	果肉色	肉質	果汁量	果皮厚	種子数		糖度	酸含量	糖酸比
								完全	不完全			
年月日		g					mm	個	個	Brix	%	
2008.12.18	132	159.2					2.3	19.0	9.6	11.5	0.70	17.5
2009.12.22	124	189.5	橙色	濃橙色	軟	多	2.2	7.2	5.5	11.9	0.80	15.0
2010.12.20	116	206.7					2.5	14.6	3.6	11.8	0.70	17.0
2011.12. 5	127	170.7					2.4	8.4	4.4	11.2	0.87	12.8



写真1 「津之望」の果実

[その他]

研究課題名：カンキツ第9回系統適応性・特性検定試験

予算区分：国庫

研究期間：2001～2011 年度

研究担当者：野中美穂子、中村典義、松尾洋一